

第20回 JDA 秋季ディベート大会 決勝戦

期日：2017年11月12日（日）

会場：立教大学池袋キャンパス9号館大教室

論題：日本は難民認定の基準を大幅に緩和すべきである

肯定側：Art of Argument（久保健治・武田顕司・佐藤可奈留）

否定側：IF（石崎英治・福原開斗）

ジャッジ：天白達也・竹久真也・玉置繁之・須田泰彰・松田拓

結果：4-1で肯定側勝利

ベストディベーター：武田顕司（Art of Argument）

■肯定側第一立論：佐藤可奈留（Art of Argument）

はじめます。

我々は、論題を肯定すべき理由を以下AからDの4点に分けて説明します。

論点A：判断基準

この試合での判断の基準を2点に分けて説明します。

1 この試合では、メリット・デメリット比較方式を採用しないでください。この方式は難民を認定することでどんないい影響があるか、悪い影響があるかという考え方です。しかし、難民を含む人間は誰も基本的な人権として平和的生存権を有しています。こうした権利は他者への影響とは無関係に持つものです。

資料。追大教授、西岡90年

「人はなぜ権利を持っているか。功利主義者は、それにより効用が最大化されるからだと答えるが、その答は不十分である。人は、他者に与える効用とは無関係に、権利を持つからである。」¹引用中断。

よって、こうした権利の価値を適切に評価するために、功利主義的なメリット・デメリット比較方式を採用しないでください。

2 代わりに我々は、難民の人権を守るのは義務だから、論題を肯定すべきと主張します。

同資料より引用再開。

「より説得的な人権の基礎づけは、カントの倫理理論によってなされる。カントによれば、人間は他の動物とは異なり唯一の理性的存在であるから、手段として扱うべきでなく、それ自体を目的として扱うべきである。即ち、自由な人間として平等に扱われるべきであり、それが人間としての権利なのである。そして逆に、人間をそのように扱うことは無条件的・絶対的な命令であり、誰もが負うべき義務となる」²終わり。

よって、メリット・デメリット比較方式ではなく、難民を目的とし、その人権を守るべき義務を果たそうとするなら、その時点で論題は肯定されるという考え方を採用してください。

論点B：判断基準の妥当性

判断基準が妥当であることを説明します。日本国は憲法前文において、全世界の国民が恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを宣言し、その目的を達成することを誓っています。

資料、沖縄大学、仲地学長78年

「すなわち、第三は憲法前文の述べる平和的生存権である。それは「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免がれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」ことを高らかに宣言し、「日本国民はこの崇高な理念と目的を達成することを誓う」とうたっている。自国において、生命身

1 西岡健夫（追手門学院大学教授）「経営と論理」『追手門経済論集』追手門学院大学経済学会、1990年3月20日、p.79 <http://www.i-repository.net/contents/outemon/ir/102/102900307.pdf>

2 同上、pp.79-80

体に対する迫害や精神的圧迫が加えられている人に対しては、彼が恐怖から免がれ、平和的に生存できるように国際的配慮がなされるべきである。」³引用中断。

よって、難民の平和的生存権も守られる必要があります。

そして、こうした平和的生存権の実現は国家が行う必要があります。その場で、なぜなら、国家は絶対最高の力である主権をおのおのの地域で行使しているからです。

引用再開。

「その配慮をおこなうものは種々の段階が考えられるが、今日の国際社会においては、終局的には「主権」という絶対最高の力を、おのおのの地域で行使しているおのおのの国家ということになる。そしてわが憲法は、「この崇高な理想の達成」を「国家の名誉にかけて」おこなうことを宣言し、求めているのである。すなわち亡命権の保障は平和的生存権の一部と考えるのである。」⁴終わり。

よって、全世界の国民が平和のうちに生存する権利を有し、この崇高な理念と目的を達成することを誓っている以上、人権に基づいた我々の基準を採用するのは妥当です。義務なら肯定してください。

論点 C：難民認定基準の緩和は義務である

難民認定基準の大幅な緩和は人権を守る義務を果たそうとすることです。説明を4点。

1 日本は難民認定の基準が厳しいです。

なぜなら、「難民」の定義についての解釈が極端に狭く、立証責任が厳しいからです。

資料、弁護士、駒井 15 年

「日本で難民が認められない理由のひとつには、保護を与えるべき対象たる「難民」の定義についての解釈が、国際的なスタンダードから遠く外れて極端に狭いことが挙げられます。また、難民の立証責任に対する見解が非常に厳しく、難民に収集不可能な証拠の提出を求めたり、或いは、申請者の供述を適正に信用しないという問題もあります。日本の多くの裁判例や入管の判断事例では、難民認定申請者に、生命の危険や捕まってしまう虞がある状況でなければ「迫害」と認めません。しかし、これは国際的なスタンダードとあまりに懸け離れています。」⁵終わり。

2 こうした厳しい難民認定は難民申請者の死をももたらしています。

資料、難民支援協会、田中 16 年

「「難民として認められなかった場合、日本に在留する資格がないため、母国に送り返されてしまいます。実際には難民である人が、日本で不認定となって送り返された場合、それはつまり迫害の待つ母国に帰るといことです。『帰国するという事は、つまり死ぬことだ』という難民も少なくありません。『過去には、難民不認定となり送還された方の遺体が母国で見つかったこともあります。』」⁶終わり。

よって、厳しい難民認定の基準は人権侵害を意味しています。

4 こうした厳しい難民認定の基準を大幅に緩和する方向性それ自体が認定者を増やし、強制送還を減らすことになるので、人権保護に資する行為であり、義務を果たす行為と言えます。よって、論題は肯定されるべきです。

論点 D：人権が衝突した場合

人権が衝突した場合にどのように調整すべきかを3点に分けて説明します。

3 仲地博（沖縄大学短大部講師）「ベトナム難民と憲法の法理」『法学セミナー』22(2)、日本評論社 78 年 2 月、pp.15-16 <http://okinawa-repo.lib.u-ryukyu.ac.jp/bitstream/20.500.12001/10116/1/Vol22No2p13.pdf>

4 同上、p.16

5 駒井知会（マイルストーン総合法律事務所 弁護士）「難民と国際法—国際人権保障の実践」（国際学研究フォーラム講演六 2：2015 年 6 月 10 日（水））『関西学院大学国際学研究』Vol.5 No.1、2016 年 3 月、p.145 https://kwansei.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=22462&file_id=22&file_no=1

6 田中志穂（認定 NPO 法人「難民支援協会」（東京）広報部コーディネーター）「「難民」と「移民」、何が違う？ 「簡単のように見えて色々な解釈」『with news』2016 年 01 月 30 日 <https://withnews.jp/article/f0160130001qqf2160123000qqF0G0010301qq000012963A>

1 仮に、義務として守るべき人権が衝突した場合は「消極的義務」と「積極的義務」という概念に分けて考える必要があります。

資料。インターセックス・イニシアティヴ代表、小山 10 年

「すなわち消極的義務とは他者に危害を加えたり生き方を不当に制約しない義務であり、積極的義務とは庇護を必要としている子どもや病人、社会的に不利な状況に置かれ積極的自由を制限された人たちなどを支援する義務のことだ。」⁷ 終わり。

例えば、ケースの対象は生存を脅かされる本国から日本に亡命し、生きることを制約しない義務なので「消極的義務」にあたり、第3国定住や資金援助などは支援なので、「積極的義務」にあたります。

2 「消極的義務」と「積極的義務」を比べた場合、消極的義務の方が優先されます。

同資料。

「こうした概念は、最近ではトマス・ポグゲ著『なぜ遠くの貧しい人への義務があるのか』でも援用されているが、当然のことながら一般的には積極的義務よりは消極的義務のほうがより強い義務となる——たとえば、遠くの国で自然災害によって命を脅かされている人をとくに支援しようとは思わない人も、救いを求めているかれらを片っ端から殺戮しても構わないなどとは夢にも思わないだろう。」⁸ 終わり。

つまり、救いを求める人を支援するよりも、救いを求める人に害をなさない方が優先度が高いということです。

3 これは人数の比較だけでは行為を正当化できないことを意味します。

同資料より。資料中の例は、病室にある気体を充満させることで5人の患者は助かるが、6人目の患者は死んでしまうというシチュエーションです。はじめ。

「この例を「消極的義務／積極的義務」という視点に即して判断すると、違った答えが導き出せる。五人を救うことは積極的義務であり、もし弊害がないのであれば実行すべきだが、わたしたちは「患者を殺さない」という、より強い消極的義務を負っている。したがって、一人の患者を犠牲にすることは、少なくとも五人と一人という人数の比較だけによっては、正当化できない。」⁹ 終わり。

よって、日本に来た難民の命を見殺しにしない「消極的義務」よりも、多くの人を救える「積極的義務」があったとしても論題の肯定を妨げることはできないということです。例えば、1人の健康な人を殺して、5人の患者に臓器を移植して助けることは「消極的義務」より「積極的義務」を優先することにあたります。普通は「消極的義務」を優先して、人を殺さないという選択をすると思います。よって、難民を見殺しにしてより多くの人を救える方法があったとしてもそれを選択すべきではない。

■否定側質疑（福原→佐藤）

福原：始めます。お願いします。

佐藤：よろしくお願いします。

福原：まず、上のAのところから聞きたいと思います。Aの話なんですけれども、要するに…なんだろう…難民一般を救うことってというのは、人権を保障することだから大事という話ですよね。

佐藤：人権を守るのは義務だから、守れるんだったら、義務を果たしているんだから…義務を果たさなければいけないのだから、やる。

福原：義務を果たすことが、すごい大事、という話。

佐藤：そうです。

福原：なるほど。OKです。じゃあ、Bのところ…妥当性というところ。2点目で、国家として、亡命権を保障すべきだっという話がありました。亡命権を保障すべき、という話はわかったんですけども、これって、なんで日本が、受け入れ、という制度で亡命権を果たさなきゃいけないんですか。

佐藤：亡命権ってというのは、したい人が亡命したいよ、って言ったら…亡命したい、というか、逃げて来たら…入れてください、と言ったら、入れてあげる、ということですよ。

7 小山エミ（インターセックス・イニシアティヴ代表）「「消極的義務」の倫理——「トロッコ問題」の哲学者フィリパ・フットとその影響」『SYNODOS』 2010年10月19日

<https://synodos.jp/society/1589/3>

8 同上

9 同上

福原：逃げてきた人を守ってあげる、と。
 佐藤：そうですね。で、この場所っていうのは、僕たちが形作る日本国家が支配しているので、日本国が認めなかったら、だれも亡命権も、日本では果たせなくなっちゃうんですね。
 福原：日本では果たせないですよ。はい、分かります。
 佐藤：で、日本がなんで亡命権を果たさないといけないかっていうと、日本は、なぜなら平和的生存権の保障を約束しているからです。
 福原：えーと、その、約束しているという話は分かったんですけど、なぜ、日本で亡命権をちゃんと守ってあげないといけないんですか。
 佐藤：少なくとも、日本に来た人がいるなら、入れてあげないと、亡命権を保障したことにはならないですから、来た人がいるなら、入れてあげろ、ということです。それが義務なんだから。簡単ですよ、言っていることは。来た人がいるんだから、入れてあげろ…
 福原：はい、分かりました、OKです。じゃあ、Cの具体的な問題、というところを聞きたいんですけども、要するに、一番具体的な問題っていうのは、母国の、人権が失われるようなところ、っていうのに強制送還されてしまって、人権が失われる、ということですよね。
 佐藤：いや、強制送還されて、死んじゃったり、深刻な事態になることもあって、それも深刻なんですけど、そもそも、受け入れを突っぱねた時点で義務を果たしてないから問題ですよ。突っぱねちゃった時点でだめじゃないですか。
 福原：あー、たしかに、母国に送り返す…
 佐藤：母国に送り返す…祖国じゃなかったとしてもだめです、送還先が。
 福原：なんでですか。
 佐藤：だって、どこに行こうと、突っぱねたのが事実なんですから。で、突っぱねは義務の不履行なんですから。
 福原：へー、まあいいや。じゃあ、その次、Dの話聞いていきます。Dの2点目のところで、消極的義務を優先させるべきだ、という話があったと思うんですけども…
 佐藤：消極的義務…Dですね。三つある資料のうちの2点目。はい、あります。トマス・ポグ。
 福原：はい、その話なんですけども、優先すべきだ…義務と義務が衝突したときに、こっちを優先すべきだ、という話は、これは、一般に、こういう衝突が起こったときはこっちを優先すべき、という話ですよ。
 佐藤：まあ、一般だし、難民のときにもそう思いますよね。
 福原：なぜですか。一般だし、その後の事例も特に難民固有の話ではないというふうに関心したんですけども、これって、難民に対しても同じようなことっていうのは当てはめて考えないといけないんですか。
 佐藤：難民だろうと、患者の例だろうと、人権っていうのは普遍的な概念なので、普遍的話をした我々は、難民のことについても言えていると思いますけど。
 福原：なるほど…
 佐藤：だって、難民だって、特別な人権があるわけじゃないですよ。なんか、すごい特殊な難民人権、みたいなのが… [時間切れ]
 福原：分かりました。

■否定側第一立論：石崎英治（IF）

始めます。

論点1：カウンタープランおよび非命題性

否定側は難民問題解決のために、日本が採るべき最適な解決策として、カウンタープランを提示します。

1. UNHCR や国連等の周辺国や難民キャンプに対する支援プログラムに資金援助を行います。
2. 日本が難民受け入れに要する費用を全額、資金援助に回します。
3. 現在難民申請中の難民に対しては現行制度通りの処置を行います。
4. 難民申請者の内、強制退去処分になったものは、本人が望めば難民キャンプへの送還を行います。これは現状、難民申請を行っている者だけでなく、カウンタープラン後に日本に来た難民性の高い者に関しても同様の措置を取ります。受け入れた難民キャンプに対しては、資金等の援助を行います。

非命題性

カウンタープランは難民受け入れを中止しており、非命題的です

論点2：カウンタープランを単独採択すべき理由

1 相互排他性

プランと同時採択というアクションを起こす場合、受け入れの費用を資金援助にかかるお金の中から持ってくることになり、総額の援助額が減ります。ノルウェーの例。

ジャーナリスト、パウエル 2017 より和訳

「現在の規則は、難民支援コストを難民受け入れから 12 か月の間は ODA としてカウントできるとしている。〔中略〕最近の OECD 報告によると、ノルウェーの ODA 総額は 2015 年～2016 年の間に 7.8% 増加しているが、国内支出を差し引くと、援助の総額が 1.4% 減少した事を示している。セゲールズは「彼らは、基本的に発展途上国への援助を減らしている」「自国の国内支出を増やすために、最も支援を必要とする途上国から資金を奪っている」と述べた。」¹⁰ 終わり。

更に、基準緩和で、より多くの難民申請者が増加し、予算を圧迫します。ドイツの例

国際関係アナリスト、北野 2016

「やさしくすれば、難民が増えつづける」というジレンマだ。ドイツに入った難民が、衣食住を保障され、さらに毎月 2000 ユーロの手当を支給されたとしよう。そのことを知った中東、北アフリカの人々は、「私もドイツに行って楽で豊かな暮らしがしたい」と思い、実際に行動を起こすだろう。その結果、100 万人だった難民は、200 万人、300 万人、1000 万人と増えていく。」¹¹ 終わり。

競合性の 2 点目。カウンタープランでは、難民受け入れにかかる全ての費用を資金援助に回します。否定側のスタンスは、使える予算があるならば、難民受け入れにかかるコストも含め、全額資金援助に充当すべきというものです。国家の予算は有限であり、効率的に使うべきです。

移民研究センター、スティーブン 2015 より和訳

「難民は人道的な理由から認定されるので、難民に関しては、コストが重要ではないと主張する人も居るかもしれない。しかし、その立場は殆ど意味をなさない。難民受け入れに要する費用や対外援助の予算は決して無制限ではなく、公的資金の需要は常に競合している。連邦政府の財政赤字は 2015 年に 4000 億ドルを超え、アメリカ在住者の 5 分の 1 は貧困層である。中東の人道危機に対処するためのリソースは有限である。」¹² 終わり。

日本も少子高齢化やアメリカを超える 1000 兆円もの財政赤字を抱えており、人道支援にあてる事が出来る予算は有限であると言えます。よって、以下で示すカウンタープランの優位性が認められた時点で、カウンタープラン単独採択すべきです。

- 10 Abby Young-Powell (journalist) “Debating the rules: What in-house refugee costs count as aid?” *devex*, July 5, 2017, <https://www.devex.com/news/debating-the-rules-what-in-house-refugee-costs-count-as-aid-90602>
[原文] “The current rules state that “sustenance of refugees” in donor countries can be counted as ODA during “the first twelve months of their stay.” This includes payments for refugees’ transport to the host country and “temporary sustenance, including food, shelter and training.” However, it’s “a very fine line to draw between what is temporary sustenance and what is integration,” which has left room to interpretation, says Seghers. Denmark, for example, reports vocational training as aid when it will benefit people who will become residents. Seghers says Oxfam is concerned that problematic costs may be included as aid and taken from ODA budgets. For example, costs relating to patrolling and security measures, or to age testing of refugees in Norway — a measure that Irene Dotterud-Flaa, senior advocacy adviser for Save the Children Norway, describes as “a tool to reduce immigration, not to protect refugees.” The influx of refugees into Europe and a lack of clarity around what can be spent under ODA budgets has meant that aid has been diverted away from programs set up to eradicate poverty in developing countries most in need. For example, the recent OECD report shows that Norway’s aid spending increased by 7.8 percent between 2015 and 2016, but deducting domestic costs means that the total volume of aid actually decreased by 1.4 percent. “They’re basically reducing aid in developing countries,” says Seghers. “It’s really about depriving countries most in need, to pay for domestic expenditures in our countries.””
- 11 北野幸伯（国際関係アナリスト）「難民を受け入れなければ三等国か」『新潮 45』35(9) 2016 年 9 月 p.45
- 12 Steven A. Camarota (Director of research, Center for Immigration Studies) “The High Cost of Resettling Middle Eastern Refugees – Given limited funds, relocation to the U.S. may not be the most effective way to help” *Center for Immigration Studies*, Nov. 4, 2015, <https://cis.org/Report/High-Cost-Resettling-Middle-Eastern-Refugees>
[原文] “One may argue that when it comes to refugees costs should not matter because refugees are admitted for humanitarian reasons. But this position makes little sense. Funds to resettle refugees in this country or to help them overseas are never unlimited and there are always competing demands for public monies. The federal budget deficit was more than \$400 billion in 2015 and 47 million U.S. residents live in poverty, including one-fifth of the nation's children. Resources to deal with the humanitarian crisis in the Middle East are finite.”

では、優位性、論点3。

カウンタープランは以下の2点でプランよりも優れています。

1 救える難民の数が多いです

資金拠出に力を入れる事で、受け入れにかかる費用と同額で、20倍の難民が救えます。

東洋英和女学院、滝澤 2016

「資金協力の良い点は、難民発生国から離れた国や個人でも出来ることのほか、国際公共財の供給における全体的な「効率性」にある。先進国での難民支援コストは1人平均で年間2万ドル以上であるのに対し、周辺国の難民キャンプなどでの支援コストは年間1000ドルで、先進国の20分の1である。生活水準の違いがこの差を引き起こす。難民発生国の周辺国であれば、同じ資金量で20倍の人数の難民の支援をするか、一人当たりの難民への支援量を20倍に増やすことができる計算だ。難民は文化的にも近い周辺国で本国帰還を待つことができ、命がけで数千キロ離れた国に行く必要性は減る。」¹³終わり。

また、人道支援では人命救助を最優先に考え、トータルで救える人数を重視すべきです。難民問題では、人数を重視すべきです。

外務省、岸守 2000

「例えば緒方高等弁務官は難民の人命救助を最優先すると常々述べているが、右は人権擁護という規範も人命を救うためには脇へやられる余地があることを暗黙に示している。実際、アフガニスタン内の国内避難民や帰還民を援助するためにタリバーンによる女性の人権軽視をある程度黙認せざるを得ない時期もあった。」¹⁴終わり。

カウンタープランは、プランと同じコストで、20倍の難民を救うことができます。プランよりも優れています。

優位性の2点目。生命の危機に瀕し、より深刻な状況にいる難民を救えます。

難民キャンプでの暮らしは、食糧援助もなく、学校にも通えず、寒波の影響で死ぬ子供もいるような悲惨な環境です。

国連開発計画 2015

「資金不足により、今年すでに160万人の難民に対する食糧援助が削減され、学校に通えない子どもたちは75万人に上っているほか、危険な出産のリスクを抱えた妊婦7万人を含む多くの人々が、救命のための医療費を支払えない状況に陥っています。[中略]この地域に暮らす数百万人向けの上下水道サービスも危機に陥っています。燃料も、住み家も、断熱手段も、毛布も、そして暖かい衣服も持たずに今年の冬を越えねばならない人々は、170万人を数える恐れもあります。昨年、数十年ぶりに中東地域を襲った大寒波で、子どもを含む多くの人々が命を失いました。」¹⁵終わり。

上下水道サービスや家など、最低限のライフラインを持たない人が数百万人います。人命を救う事を第一に考える観点でも、彼らを早急に救うべきです。

では、一旦否定側の議論を終わって、ケースアタックに行きます。

まず、ケースアタックの論点Cの2枚目の資料を見てください。これ、3点目で「死をもたらす」っていうふうに言っていたんですが、この難民が、迫害の待つ母国に強制送還されるっていうのは、カウンタープランでも、単独採択でもキャプチャー可能です。カウンタープラン4点目を見てください。

13 滝澤三郎（東洋英和女学院大学大学院客員教授）「混迷する中東の行方を探る：難民問題解決のカギは？」『SRID ジャーナル第11号』2016年7月 <http://www.sridonline.org/j/doc/j201607s03a02.pdf>

14 岸守一（外務省 在ジュネーブ国際機関代表部二等書記官）「転換期の国連難民高等弁務官 一人道行動の成長と限界」『外務省調査月報』2000年No.4（2000年12月記） http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/pub/geppo/pdfs/00_4_1.pdf

15 「国連機関とパートナー、シリア難民と受入国にとって不可欠な支援が資金不足でストップしている現状を指摘」『国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所HP』2015年6月25日 <http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/presscenter/pressreleases/2015/06/25/syria.html>

ここで、本人が望めば難民キャンプへ送還を行う、というふうにしています。つまり、迫害が待っており、殺されてしまう危険性が高い母国に送還されることは、カウンタープラン導入後は発生しません。なので、カウンタープラン単独採択でも大丈夫です。

では、その他、見ていきます。まず、論点のD、ここなんですけれども、積極的義務と消極的義務っていうのは、「こういう基準もある」というふうに言っているにしか過ぎなくて、これを絶対に重視すべき、という話ではありません。

次、3枚目。この資料を、多分肯定側は頑張ると思うんですけど、そもそも1点目として、これもやっぱり、一つの基準でしかない。2点目として、これっていうのは、事例として挙げているのが難民じゃない。3点目。難民としてどういうふうに比べるのか、っていうのを出したのは我々で、つまり、これっていうのは、優位性の1の2枚目を見てください。難民の人道支援においては、人命の救助が最優先、で、しかも、それっていうのは、人権をちょっと…しょうがないんだけど、先に人命を救いましょう、ここが、価値なわけだから、少なくとも、難民問題においてはこの部分で価値判断をするべきだというふうに思います。

じゃあ、次。論点AとBに戻ります。

まずですね、論点AとBの、Bの2枚目以外のところですね。ここっていうのは、実は難民一般の話であって、これっていうのは、結局人権を守る、つまり、命を救うことが重要だ、っていう話です。だから、カウンタープランで言っているように、資金を全額充当して、20倍の効率でたくさんの人を救った方が絶対いい。で、彼らは、4枚目を伸ばすと思うんですけども、別にこれ、亡命権って言うんですけど、何でこれを、日本が保障しなくちゃいけないのか、要するに、周辺国に逃れて、難民キャンプに戻って、そこで別に保障されれば良いわけであって、何で、日本から戻してはいけないのか、なんで日本でやらなくてはいけないのか、ここは論証できなければ、やっぱりこれもポーターにはならない、というふうに思います。

では、否定側に戻って、論点4、解決性を追加していきます。

仮に、援助額の差がわずかであっても、難民に与える影響は大きいです

国連WFP ニュース 2014

「UNHCRと国連WFPがジュネーブでの会合で出した報告書は、難民は世界で最も弱い立場の人たちであり、最低限の配給食糧をさらに削減することは、既に弱っている人々に大きな打撃を与えると述べています。[中略]削減量が少しいずれであっても、既に栄養不良の人たちにとっては致命的です。特に、子どもへの影響はすぐに現れ、多くの場合、その後の成長を阻害し、取り返しがつかない結果を招きます。」¹⁶終わり。

こういうふうな状況で、少額な援助でも、たくさんの人を命を救うことができる、子どもを救うことができる。だから、こういった資金援助、という形で、より多くの難民を、命の危機から救っていく、これが大事であるから、我々は、カウンタープラン単独採択であるべきだ、というふうに主張します。

ちょっと時間余っちゃったので、切ってください。終わります。

■肯定側質疑：佐藤→石崎

佐藤：お願いします。

石崎：お願いします。

佐藤：まず、カウンタープランなんですけど、全額資金援助にする、その理由としては…単独採択できない理由として、総額の援助が減ってしまっていて、難民がたくさん来ちゃう…優しくすると…

石崎：たくさん来て、たくさん来ちゃうと、さらに予算が圧迫されるんだ…

佐藤：たくさん来るのはなんですか。

石崎：ここは、要するに、優しくすると難民が増えつづけるっていうジレンマ、っていう話をしています…

佐藤：やさしくすると、「あの国、受け入れてくれるらしいから、行こうぜ…」

石崎：…みたいな感じです。

佐藤：なるほど。分かりました。難民って、そんなに、連帯して「あの国、すごいぞ」っていつて来るんですか。

16 「アフリカの難民80万人への食糧支援を削減 国連WFP、UNHCRが緊急支援要請」『国連WFP ニュース』2014年7月17日 <http://ja.wfp.org/news-release/140717>

石崎：どうなんですかね。それは多分、情報交換かわからないんですけど、今はSNSも発達していますし…

佐藤：分かりました。じゃ、次行きます。全ての資金を援助に回すと効率的にできる、っていう話で、20倍…優位性の1点目の資料…

石崎：はい、優位性の1点目…

佐藤：これなんですかけれども、同じ資金で20倍っていうのは、どういう計算で…そんな計算は難しくできないと思うんですけど…

石崎：ここの資料中で何を言っているかっていうと、生活水準の差がその違いを引き起こす、っていうふうに言っていて、例えばここは、物価とか人件費とか、もしくは土地の金額かもしれないですけど、要は明らかに途上国の方が、いろんな支援をする、もしくは同じものを買うのが、安かったりとか、人件費…同じ人を雇うのが安かったりとか、そういったところです。

佐藤：なるほどなるほど。で、20倍っていうのは何ですか。

石崎：で、ここは、いろんなデータがあると思うんですけど、滝澤さんによると、先進国だと一人平均で年間2万ドルっていう…これっていうのが先進国で…

佐藤：分かりました。じゃあ、とりあえず、何か、20倍だ、と。で、次なんですけど、人道支援は、人数で…すいません、最後に読んだ資料…追加した資料なんですけど、これ、支援することで、キャンプの環境が改善する、っていう話ですか。

石崎：キャンプの環境が改善する、っていうのもそうなんですけど、ここで言っているのは、要するに、少ない資金の援助でも、例えば子どもに対する栄養失調の状態を改善できるとか、そういうちょっとしたものでも、命を救う…しかもその人が…

佐藤：わかりました。ありがとうございます。じゃあ、僕ちょっと思うのは、少ない額でも栄養失調は改善できた、と。栄養失調を改善した後はどうするんですか。

石崎：そこっていうのは、肯定側さんも、今後ずっと難民を受け入れ続けていくわけですよ。ということ、少なくとも、プランを導入するんですよ、毎年一定の金額が出てくるわけじゃないですか。だから、命を救うための金額っていうのを、当然最初にやるし、当然その後のフェーズになったら飲み物とか届けるとか思います。

佐藤：分かりました。キャンプに渡して、使いみちは特に指定しませんよね。つまり、キャンプに渡したお金っていうのは、あの…Aさんっていう難民の面倒を一生見るのに使え、とかは言わない。ただ単に、子どもの栄養失調を救うのに使ってください、っていうだけで、じゃあ、子どもが栄養失調を解決した後どう面倒を見られるか、とか、そういうものは日本は何も指定しないでお金だけ渡すんですよ。

石崎：えーと、そこは、多分それぞれ難民キャンプとかが判断すべき問題で…

佐藤：分かりました。日本は何もしませんね。

石崎：ちょっと…

佐藤：用途の指定はしない。

石崎：用途の指定はしないです。彼らが最も効率的と思う方法で使います。

佐藤：じゃあ分かりました。次行きます。大丈夫です。人数を優先しろ、と言った資料なんですけれども…下から4番目。

石崎：はい。

佐藤：人道支援…タリバンの話が出て来ましたが、タリバンがなんで、人権は人数じゃないとだめなんだ、と言っているんですか。

石崎：いや、違うんですよ。これっていうのは、今の…今のですよ…今の難民を保護する、っていうことで、何が起きているか、っていうのを説明した資料で、例えば、アフガニスタンで…

佐藤：女性差別の問題とかもあったかもしれないけど、人命を優先した、っていう資料であって、人数の比較でもいい、とは言っていないよ。

石崎：人数の比較でもいいとは言っていない、とはどういうことですか。

佐藤：だって、女性差別の方を許して人命を優先するって言うだけですよ。

石崎：ここで言っているのは…

佐藤：すいません。時間ないんで、終わります。

石崎：えー。

■肯定側第二立論：武田顕司（Art of Argument）

まずカウンタープランの4点目を見てください。ここに反駁を2点。

1点目、どこの国が受け入れるのか、本当に実行できるのかが不明です。

2点目、論題の主体は日本ですので、送還先のキャンプが受け入れる証明がない限り、このプランに基づく議論は採用すべきではありません。実際に受け入れる、という証明がない以上は、突っぱねる、ということもあるわけですから、解決性がありません。

次に、競合性を見てください。ここに反駁を4点します。

- 1点目、これは、予算がネックだ、という話なので、物理的に同時にやろうとすることはできます。
- 2点目、彼らがここで示すべきは、同時採択して、余計にコストがかかった場合の弊害です。しかし、それは証明されていません。
- 3点目、2枚目の資料で、ドイツで難民がたくさん来たと言っていました、日本にも当てはまる証明がありません。
- 4点目、実際はほとんどやって来ません。なぜなら日本は地理的障壁が高いからです。

資料、UNHCR 協会、滝澤 17 年

「日本の難民受け入れはなぜこれほどまで少ないのだろうか？第一の理由は、多くの難民が発生する中東やアフリカの紛争国家から日本が地理的に離れていることだ。来日手段は航空機以外にはなく、航空券代も高額だ。一家五人で来れば年収の何倍にもなる費用がかかる。難民にとって日本の「地理的障壁」はきわめて高い。」¹⁷ 終わり。

よって、プランを取らないことで捻出できるコストは微々たるものだと考えられます。

次に、優位性を見てください。ここにまず、全体的に反駁を2点。

- 1点目、我々のケースは日本国が亡命権を守る義務を果たすというものでした。そもそもなぜ彼らのプランでこうした義務をキャプチャーできるのか証明がありません。彼らは突っばねています。
- 2点目、彼らはキャンプの難民を救おうというだけで、今日本に助けを求めに来ている難民を助けるものではありません。こうした、お金だけ出して、面倒を見ない、という姿勢は批判されるべきです。

資料、ライター、内村 15 年

「各紙の論調は、こうした日本の「金は出すが直接支援はしない」という姿勢に概して批判的だ。ガーディアンは「低い認定率は恥ずべきことだ」「責任を直視せよ」といった識者コメントを紹介。インデペンデントは、先週、難民ら約 100 人が受け入れを求めてデモを行ったことを参加者の怒りのコメントと共に紹介している。」¹⁸ 終わり。

よって、全く優れているとは言えません。

次に、優位性の、数のところを見てください。ここに5点反駁します。

- 1点目、彼らは日本一国の拠出資金の事しか考えていません。しかし、難民問題は世界全体でどういう枠組みでバランスを取っていくか考えるべき問題です。
- 2点目、世界的なバランスを見た時、途上国は限界に達している、日本を含む先進国はより一層難民を受け入れる責任があります。

資料、アムネスティ日本 16 年

「しかし、紛争や迫害で故郷を追われた世界の難民 2,100 万人を十分に保護し、「戦後最大の難民危機」に対応するには甚だ不十分である。難民の 8 割以上がわずかな途上国に集中し受け入れが限界に達している状況を考えると、日本をはじめとするいわゆる先進国は、第三国定住などあらゆる合法的で安全な手段によって、最も弱い立場に置かれている難民を受け入れ、保護する責任を今以上に果たさなければならない。」¹⁹ 終わり。

- 3点目、しかし、先進国の受け入れが不十分のため、こうした枠組みから途上国が離脱を始めています。実際に、ケニアが難民キャンプを閉鎖しようとしています。

17 滝澤三郎（東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科客員教授）「東洋英和女学院大学大学院連続講座 日本の難民政策を問う 第5回 日本の難民政策：庇護から保護へ」2017年2月18日 『現代史研究』13号（2017年3月）東洋英和女学院大学現代史研究所 p.225

18 内村浩介（ライター）「「お金は出すが…」日本の少ない難民受け入れに海外から批判「責任を直視せよ」とも」『New Sphere』2015年9月14日 <https://newsphere.jp/national/20150914-1/>

19 アムネスティ日本「日本：難民の保護に向けて、日本はさらなる役割を担うべき」2016年9月26日 http://www.amnesty.or.jp/news/2016/0926_6345.html

資料、オックスフォード大 難民研究センター、小俣 16 年

「私がケニアに滞在していた今年 5 月に、ケニア政府は 30 万人以上のソマリア難民が暮らし「世界最大の難民キャンプ」といわれるダダブ難民キャンプを、治安悪化と環境保護のために今年 11 月までに閉鎖すると発表し、世界の難民問題関係者に衝撃を与えた。先進国の政府や国際人権団体らがケニア政府の決定を非難しているが、同国政府は、「(ケニアより) 経済的に遥かに裕福な EU 諸国はシリア難民の受け入れを拒絶している」と反論、「そもそも難民受け入れの負担は本来、国際社会全体で分担するものであり特定国だけが過度の重荷を背負わされるべきではない」と主張し、キャンプ閉鎖を撤回する様子はない。」²⁰ 終わり。

つまり、こうした離脱を防ぎ、国際社会全体で難民を救っていく枠組みを維持していくためには先進国も可能な限り受け入れを増やし、責務を果たしていく必要があります。よって、プランの方が優れています。

4 点目、その次のアフガニスタンの資料ですが、これが今回の論題にも当てはまる証明がありません。人数の方を優先すべき、という論拠が示されていませんし、タリバン政権下という、特殊な事例のものなので、当てはまるか分かりません。

6 点目として…5 点目です。5 点目として、ケースの論点 D の 3 点目を伸ばしてください。数だけで考えるべきとは言えません。目の前で日本に助けを求めてきた難民を見殺しにしない消極的義務と、難民に物資を与える積極的義務とでは前者の方が優先されます。逆であれば、1 人の健康な人を殺して内臓を 5 人の患者に分けるといふようなことも正当化されることとなりますが、当然そんなことは行われていません。直接見殺しにするのはそれだけ重いということなんです。よって、ケースの方が優れています。

次に、優位性の、質のところを見てください。ここに反駁を 3 点。

1 点目、ケースの対象の難民はたまたま日本にきています。

資料、FRJ なんみんフォーラム 17 年確認より引用開始。

「難民は、なぜ日本に来るのでしょうか？私たちが聞いている限りでは、脱出先を選んできている難民はそれほど多くはありません。たいていの場合、たまたまビザを取れたなど、あまり選択の余地なく日本に来ています。」²¹ 終わり。

しかし、彼らの政策はこうした人たちを強制送還して見殺しにするという政策です。全く優れた政策とは言えません。

2 点目、寒波で死の恐れがあっても、日本に庇護を求めてきた難民も死の恐れがあります。これはケースの論点 C の 2 枚目の資料を参照してください。

3 点目、その上でケースの論点 D の 2 点目を伸ばしてください。先ほども述べたように直接見殺しにする方が国家の行動としては重みがあります。よって、ケースを優先すべきです。

で、解決性に行ってください。

1 点目として、支援して、何が解決するのか、というのが、証明がそもそもありません。

2 点目として、結局ですね、お金を出して、物資を与えて、それで解決するっていう証明が全くなくて、結局、義務を果たした、ということは、これでは言えないと思います。

3 点目として、実際は資金援助したとしても、物資がテロリストに盗まれるため、問題は解決しません。

資料、クローズアップ現代 17 年、元テロリストの発言。

「「難民キャンプに紛れ込むには、ただ難民のふりをすればいいんです。テロ組織は、そこで難民向けの支援物資を盗んでいます。」 [中略] 「テロ組織のメンバーは難民キャンプに 400 人以上はい

20 小俣直彦 (オックスフォード大学難民研究センター主任研究員) 「国連が定めた「難民救済策」は機能していない 新たな支援システムと日本の関与が必要だ」『東洋経済 ONLINE』2016 年 8 月 25 日
<http://toyokeizai.net/articles/-/132710?page=4>

21 「難民は日本にも来ています」『FRJ なんみんフォーラム HP』 <http://frj.or.jp/refugees>

ます。商売を装って転売しているため、見つけるのは簡単ではありません。そうやってテロ組織は資金を稼いでいるんです。」²²終わり。

よってですね、物資支援したとしてもそれがうまく使われる証明がないので、これで問題が解決するとは言えません。

ケースの方に移ってください。

ケースでいろいろあった反論なんですけど、全部カウンタープランへの反論をアプライしてください。その上で、解決するのかどうか、っていうところが問題になると思うんですけども、そこに関して、第一立論で述べたように、難民の亡命権を保証する義務があることは否定されていません。こうした義務を果たそうとする意図があれば、その行為は肯定されます。

資料、追大教授、西岡 90 年

「人権基準は行為が目指す目的、あるいはもたらす結果によってではなく、行為の動機、信条によって、行為の是非を判定する。ある行為が一定の人権を尊重する意図があれば、その行為を善とし、また、一定の人権の尊重を義務として課する。」²³終わり。

つまり、いいことであるなら、それは行動すべき理由になる、ということです。よって、問題が解決するかどうか分からなくても、義務を果たそうとするだけで、論題は肯定されます。よって、プランを取るべきです。以上です。

■否定側質疑：石崎→武田

石崎：はい、始めます。よろしくお願ひします。まず、競合性のところに対して…というか、カウンタープランですね。カウンタープラン 4 点目、結局、このカウンタープラン、我々が、強制送還すれば、キャンプに送ればいいじゃないか、というふうに言っているところについては、実行可能性のダウトしかなかった、ということでもいいですよ。

武田：いや、そもそも証明責任を果たしていない…

石崎：いやいや、で、要するに、できるのかどうか、しか言っていないですよ。できない、って…

武田：だって、どこの国が受けるかどうかって、わからないじゃないですか。

石崎：わかりました。次です…

武田：突っぱねられる可能性もありますし…

石崎：競合性の 2 枚目に対して、地理的にたくさん障壁があるから来ない、って言っているんですけど、これは、日本は地理的に遠いから来ない、って言っているだけですよ。

武田：航空機でしか来れないから…四方を海に囲まれているし、航空券代が高いからです。

石崎：そうですね、地理的距離ですね。はい、わかりました。で、結局この、単独採択できない…物理的に同時にかかる金額はどれだけかわからないから、同時採択できるんじゃないか、っていうのが、肯定側の主張ですよ。

武田：同時採択できる理由ですか。

石崎：はい、要するに、そんなにお金がかかるかわからないから…

武田：お金を出せば済む話っていうのであれば、お金を出せばいいじゃないですか、っていうことです。

石崎：なるほどなるほど。で、もう一個確認なのが、我々が競合性の 2 点目で言っていた、できるだけ効率的にお金を使うべきだよっていうところに対する、直接的な反駁はないですね。

武田：それは、その考え方をすべきではない、という反論はしています。

石崎：だから、優位性に対して反駁をしている、と。

武田：そうですね。

石崎：なるほど、わかりました。で、優位性の反駁に移って行くんですが、まず、批判があるんだ、みたいな話なんですけれども、これ、多分ガーディアンって、多分、どっかの新聞だと思うんですけど…

武田：ガーディアンで紹介されている識者です。

石崎：識者ですよ。ということは、これ、多分、どっかの…朝日新聞とかで、どっかのコメンテーターが「日本の難民受け入れはちょっと厳しい」って言っているのと同じじゃないですか。

武田：まあ、でもそういう声があること自体が問題だと認識しています。

石崎：んー、そうなんですかね。わかりました。次、途上国は限界だ、っていう話なんですけど…この、アムネスティさんですね、何が、限界なんですか、これ。

武田：受け入れが、ですね。

石崎：で、何で限界なんですか。

22 「テロ組織が難民支援をねらう！？ ～世界最大キャンプ閉鎖の裏で～」 『クローズアップ現代』2017年10月10日 <http://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4043/index.html>

23 前掲 西岡 1990、p.79

武田：シリア難民が、いっぱい来ているからです。
石崎：いっぱい来ると、何が限界になっちゃうんですか。
武田：えっと、まあ…なんですかね…物理的なスペースの問題とかもあると思いますし…
石崎：スペース…はい、他は。
武田：物資とか、そういった問題もあると思います。
石崎：物資…まあそうですね。まあ、いろいろあるわけですよね。ということは、これ、現状で限界だ、ってふうに言っている…
武田：そうですね。
石崎：OKです。次、ケニアキャンプが閉鎖された、っていう話なんですけど、これ、何で閉鎖したんですか。
武田：この、ケニアの言い分によると、先進国が受け入れをしていない…
石崎：いえいえ、多分受け入れをしていないから、っていう理由で、難民キャンプを閉鎖するっていうことは無いはずで、要は、多分何か足りないとか、このままだと…
武田：治安悪化って、資料中ではいっています。
石崎：治安悪化、じゃ、治安悪化なんですね。わかりました。じゃあ…
武田：あとは、受け入れしていないから、批判するのは、お前らおかしいだろ、ということも…
石崎：でも、批判のためには、閉鎖しないですよね…まあいや、治安悪化ですね。わかりました。で、次、テロリストもいるから、支援物資が抜かれちゃうんだ、みたいな話があったんですけど、これって、別に、全部が全部テロリストに流れちゃうとかって話ではないですよね。減るものもある…
武田：まあ、減る部分もある、っていうことですね。
石崎：ですよね。はい。で、次…
武田：本当に解決するかどうか、怪しい…
石崎：ケースに移ってください。ケースのとことで、再反で読まれていた、やることがあって…姿勢を見せることが重要、っていうところなんですけど…すいません、ちょっとこれ、なんですか。なんで、姿勢を見せることが重要なんですか。
武田：単純に考えて欲しくて、いいことをやろう、っていうのに理由は要らない、というか…
石崎：え、でも、別にその、アクションが実際に起こせないとか…っていうのも…ん…
武田：例えば、目の前で… [時間切れ]

■否定側第二立論：福原開斗（IF）

始めます。

カウンタープランの4点目の実効可能性から追加していきます。

カウンタープランの4点目なんですけれども、1点目として、彼らは、周辺国が受け入れてくれない、みたいなことを言っていたと思うんですけれども、受け入れてくれない、という根拠が不明だった、というふうに思います。

2点目として、カウンタープランというのは、難民を送って、受け入れてくれたら一定の資金援助をする、というものです。そうした状況からも、受け入れ国が拒否する、というところまでの立証はない、というふうに思います。

3点目、実際は、難民キャンプだけでなく、受け入れ国やホストコミュニティも資金を必要としており、カウンタープランであれば、受け入れてくれると考えられます。

横国大、小林17

「難民庇護の観点からも、ホストコミュニティ開発支援は効率的なアプローチと評価できる。なぜなら、難民の90%は、難民キャンプでは無く地域コミュニティに溶け込んで暮らしているという現実があるからである。[中略]ホスト国政府の立場にたてば、ホストコミュニティ開発はODAドナーからの融資を引き出すための交渉材料となる。一方、ドナー国政府の立場からは、ホストコミュニティ開発支援という形で、難民問題に貢献できるのであれば、自国で難民を受け入れる負担と比べれば「安い買い物」となる。」²⁴終わり。

よって、難民を受け入れてもらう代わりに資金援助をする、というのは、受け入れ国側にとってもメリットとなるので、実行できる、というふうに考えるべき。

24 小林誉明（横浜国立大学大学院准教授）「ODAは難民を救えるか：グローバルな人口移動時代における国際貢献の構図（特集 開発と援助の未来学）-（援助を超えて）」『東洋文化』2017年3月
https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=27410&file_id=19&file_no=1

じゃあその次、競合性の話に行きましょう。競合性なんですけれども、まず1点目として、競合性の2点目、要するに、有限の予算を効率的に投資すべきだ、という話は、全く否定されていない、というふうに思います。で、1点目。1点目も、結局受け入れたら、その分コストが減る、という話は全く否定されていないくてですね、その、単独の、差分の部分が不明だ、という…そこでできることが不明だ、という反論でしかない、というふうに思います。

で、そこについて。そこなんですけども、ミニマムでどれくらいの差分があるか、つてのを示したいと思っていて、今、プラン導入直後の難民認定数っていうのは、弁護士田沢さんの2017年の資料によると、2016年の難民申請者は、1万人を超えて、難民認定率の世界平均というのは32パーセントなわけですから²⁵、プラン後っていうのは、世界に合わせて認定基準を緩和する…要するに、普通に日本を国際社会の一員として認定していこう、という話なので、それに寄っていくというふうに考えることができますと思います。で、そうなってくると、1万人の、大体30パーセント、3,000人…少なくとも、2,000人から3,000人ぐらいの人っていうのは認定されるというふうにするべき。で、そうなってくると、優位性の1点目のエビデンスで言っているように、そこにかかるのって、先進国、日本での受け入れにかかる費用っていうのは200万円…一人あたり200万円なわけですから、200万円×3,000人で60億、というふうにするべきで、60億っていうので、できることっていうのは、実際に、その差分で救える難民っていうのは、実際にいる、っていうのが立証できた時点で、競合性の1点目というのは評価できる、というふうに思います。

じゃあその次、優位性の1点目…優位性の1点目なんですけれども、彼らはアムネスティの資料、何か、周辺国の受け入れが限界なんだ、という話で返ってきています。1点目として、キャンプや受入国の何が限界なのか、というのが、彼らの証拠資料では全く示されていない、というふうに思います。2点目として、実際、周辺国は資金不足で困っており、資金面の援助を必要としています。

東洋英和女学院大、滝澤 16

「シリア難民を、トルコは270万人、レバノンには100万人以上受け入れています。もともと財政難の途上国に数百万という難民が押し寄せれば、資金や対策が追い付かないのは当然です。〔中略〕仮に周辺国に避難できたとしても、難民キャンプに入れるのは25%。」²⁶終わり。

3点目、そうした状況が資金援助で解決します。資金援助は、周辺国やキャンプのインフラ整備の機会となり、難民流入による混乱の緩和に繋がります。

横国大、小林 17

「難民受け入れを任されたホストコミュニティは、難民流入によって、住民が使うべきリソースや公共サービス、インフラ等全てが不足することになる。〔中略〕もしもホストコミュニティの学校や病院といった公共施設や道路、上下水道、電気といったインフラを整備することに困って、難民流入によって生じる混乱現象が解消されるばかりか、従来よりも更に質の良いサービスを享受できるのであれば、地域住民の納得度も上がるだろう。〔中略〕ホストコミュニティの立場にたてば、難民の流入は地域開発を進めるための機会という側面を持つことになる。」²⁷終わり。

で、実際そういうふうになれて、実際、今回のラウンド…ミニマム60億っていうのも、こういうことができるっていうのを解決性で示していきます。

解決性を見てください。解決性なんですけれども、まず、少ない援助額でも、できることがたくさんある、という話は、全く否定されていない、というふうに思います。さらに、実際にそういうふうな、安全面っていうのは…安全面だったり、教育の支援っていうのもできます。実際、イケアが39億円 UNHCR に寄付したキャンペーンの事例から。

CSR today 2016 より、始め。

「このキャンペーンが難民の生活に与えたポジティブな影響の例: エチオピアとヨルダンで暮らす28万人を超える難民は、5万6000個以上のソーラーランタンの配布と720本以上の太陽電池式街灯の設置のおかげで、以前に比べて夜間も非常に安全に暮らせるようになりました。〔中略〕バングラデシュとチャド、エチオピアでは、3万7000人以上の難民の子どもたちが小学校へ通えるようになりました。」²⁸終わり。

25 田沢剛 (弁護士) 「世界的にも極端に低い日本の難民認定率・問題はどこにある?」 『asQmii』 2017年2月18日 <http://asqmii.com/jijico/2017/02/18/articles22557.html>

26 滝澤三郎 (東洋英和女学院大学大学院客員教授) 「紛争や貧困に苦しむ世界中の難民に心を寄せ、救いの手を」 『Wakachiai』 2016年9月15日 http://www.ichijiki.org/project/news/news_2/post_269.html

27 前掲、小林 2017

ということで、実際、そういうような援助ができる。
で、2点目。実際、さらに、キャンプに対する包括的な支援も安価で可能です。外務省が5.88億円かけて実施したレバノン共和国におけるパレスチナ難民キャンプ再建計画の例。

外務省 2017

「本計画の実施により、約3万2千人のナフル・エル・バーリド難民キャンプの帰還難民への人道支援、帰還先の地域社会の能力構築等を図ることにより、レバノンにおけるパレスチナ難民の生活環境改善および地位安定に寄与することが期待できる。」²⁹終わり。

ということでですね、実際少額…60億円以下…5.8億円だったり、39億円であっても、こういった支援が可能、というふうには言えると思います。

じゃあその次、ケースアタック行きます。

ケースのAの話…ケースのAの話で、一番最後の、亡命権を守るべき、っていう話に対して反論していきます。亡命権のところなんですけれども、1点目として、なんで日本が亡命権を受け入れなければいけないのか、というところまでは証明されていない…これは難民にとって、どっちが良いのかという視点で見るべきで、否定側は、難民にとっては周辺国での受け入れの方が良い、という立場で反論します。

1点目、神戸学院大、杉木 09

「難民にとっては、文化的近似性がある方が受け入れ地域の住民との統合は容易であり、アフリカの場合、近隣諸国からの難民の受け入れに比較的寛容なのは、文化、民族的近似性と関係があるといわれている。」³⁰終わり。

ということで、その後の生活のことを考えたら、周辺国での受け入れの方が適している。
で、2点目、実際難民キャンプにいる難民の大半は、祖国への帰還や周辺国での受け入れを望んでいます。

Swiss info 2015

「ブランド氏は昨年12月末、レバノンの難民キャンプを視察し、現地の状況を目の当たりにした。
「難民キャンプは悲惨な状態だった。ここでの貧困は想像を絶する。未来も希望もない痛ましい状況だ」 [中略] 「難民キャンプで話をした人々の大半は、欧州には行きたくないと言っていた。祖国の近くにとどまり、事態の進展を見守り、情勢が改善し次第、できるだけ早く自分の国に戻りたいと思っている」」³¹終わり。

ということで、難民にとって、その後の生活を考えたら、周辺国に送り返しても、その後の生活は容易になる、という話。

で、結局彼らの話っていうのは、要するに、我々のカウンタープラン4点目の…彼らは結局、ケースサイドで、日本に来た人っていうのを見殺しにすることはいけない、みたいなことを再三言っていたと思うんですけども、我々は別に見殺しにするわけじゃなくてですね、周辺国に送ってあげて、そこで支援をしていくという話であって、別に、彼らが言っている最大の価値、見殺しにする、っていうところは、我々のカウンタープランでもクリアしているわけなんですよ。じゃあ、そこにおいて、彼らは、カウンタープランでクリアできない部分っていうのが、具体的に何なのか、というのを示さない限り、ケースの価値観というのは取れない、というふうに考えられます。終わります。

28 「CSR News : イケアの「難民キャンプに明かりを届けよう」キャンペーン、約39億円に到達」
『alterna online』2016年1月22日 <http://www.alterna.co.jp/17170>

29 「日本のODAプロジェクト レバノン 無償資金協力 案件概要」『外務省HP』平成29(2017)年3月31日 http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/data/gaiyou/odaproject/middleeast/lebanon/contents_01.html

30 杉木明子(神戸学院大学教授)「国際的難民保護の「負担分担」と難民開発援助に対するドナーの動向:デンマークの事例から」『神戸学院法学』第39巻第1号(2009年6月) <http://www.law-kobegakuin.jp/~jura/law/files/39-1-02.pdf>

31 「求められる難民支援 現地で援助か、スイスへ受け入れか?」『swissinfo.ch』2015年2月4日 https://www.swissinfo.ch/jpn/politics/%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%82%A2%E9%9B%A3%E6%B0%91%E5%95%8F%E9%A1%8C_%E6%B1%82%E3%82%81%E3%82%89%E3%82%8C%E3%82%8B%E9%9B%A3%E6%B0%91%E6%94%AF%E6%8F%B4-%E7%8F%BE%E5%9C%B0%E3%81%A7%E6%8F%B4%E5%8A%A9%E3%81%8B-%E3%82%B9%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%81%B8%E5%8F%97%E3%81%91%E5%85%A5%E3%82%8C%E3%81%8B-/41253578

■肯定側質疑（武田→福原）

- 武田：はい、じゃあカウンタープランの方から聞いていきたいと思います。資金援助が…プランの4点目がうまくいくんだ、という話ですね、理由をもう一回教えてください。
- 福原：要するに、受け入れ国だったり、ホストコミュニティ…いま難民を受け入れているところの多くってというのが…プラン後送るところもですよ…というところが、そもそも資金というのを必要としているから、資金と一緒にやりますよ、っていう枠組みだったらOKということです。
- 武田：資金を必要としているのはなんででしたっけ。
- 福原：それは、まあ…そもそも…多分、その後に読んだエビデンスとかとも関係してくると思うんですけど、資金があれば、できることがいろいろあって、難民だけじゃなくていろんな、多くの人…
- 武田：何かの施設とかが作れる、ということですか。そういう施設とか、十分作ってしまった後ってどうなんですかね。その後も受け入れてくれるんですか、その後って。
- 福原：まあ、でも、それってというのは、多分あればあるほど、できることって広がっていくというふうに思っていて、インフラ整備だったり、していくと思います。
- 武田：わかりました。ちょっともう一回聞きたいんですけど、具体的にどこの国が受け入れてくれるって想定してますか。
- 福原：ちょっと具体的な国までは挙げていないんですけども…
- 武田：わからないんですか。
- 福原：わからないことはない…普通に、今難民キャンプ…
- 武田：わからない国がやってくれると思っている、ということですか、否定側は。
- 福原：いや、そこまでは言っていないで、今難民キャンプって…
- 武田：言っていないですね。
- 福原：え…どういうことですか。
- 武田：どこ、って言うてくれるか…
- 福原：具体的には明示はしていませんね。
- 武田：じゃ、やれるかどうかわからなくないですか。
- 福原：でも、要するに、これは何か…
- 武田：もういいです、水掛け論になるんで。次行きます。えーと、3,000人くらい認定されるって言うていたんですけど…国際基準って言うていましたよね。
- 福原：はい。
- 武田：要は、地続きの国から難民が入って来るような国とか、航空機を使わなくても入って来れるような国とかも全部ひっくるめた平均、ということですよ。
- 福原：まあ、そうですね、何か、日本が…
- 武田：じゃあ、このプランだと、本当にそのくらい行くんですか。
- 福原：ちょっと、日本の状況が特に違う、っていうのはわからない。
- 武田：資料中で言うていたと思うんですけど。いいです。次行きます。えーとですね、結局、60億円あったとして、何ができるんでしたっけ。
- 福原：60億円ないといけない、っていうわけじゃなくて、例えば、今、外務省っていうのが、ODAとして計画しているものの中では、6億円弱ですよ、それで、難民キャンプの、地域社会とかの…難民キャンプの生活支援とかをやっているっていう話もありますし…
- 武田：わかりました。ちょっと時間ないんで、ケースアタックの方に行きたいと思うんですけども、難民は、周辺国にとどまりたい、みたいな資料を二枚ほど読まれたと思うんですけども、これって、たまたま日本に来た人に聞いた資料ですか。
- 福原：いや、そういうわけではない…そうですね、はい。
- 武田：なんでこれ、我々のケースに当てはまっているんですか。
- 福原：一枚目の話っていうのは、難民一般にとって、その後の生活を…
- 武田：難民一般、って、誰ですか。
- 福原：まあ、それは、だから日本にくる難民っていうのも、別に日本語が喋れたりとか…
- 武田：いやこれ…すいません、この資料、日本に来た難民に聞いた資料じゃないですよ。
- 福原：まあそうですね、はい。
- 武田：誰ですかね。
- 福原：誰…だから、一枚目の話っていうのは、難民のその後の統合のことを考えたら、文化だったり、言語とか、そういうところが近い周辺国の方がいい…
- 武田：統合とかって、逃げられた後の話ですよ。
- 福原：まあそうですね、はい。
- 武田：わかりました。じゃあいいです。で、そうですね…その後の欧州近く…近くがいい、って言うていたと思うんですけど [時間切れ] これもキャンプのことですね。
- 福原：はい。

■否定側第一反駁：石崎英治（IF）

始めます。否定側から見ます。

カウンタープランの実効性について。これは、先ほど2NCでも反駁しましたが、要するに、途上国でお金が足りない現状がある。だからお金を欲しがっている。だから、そういった、お金を渡すことで、難民を受け入れてくれるんじゃないか、っていうふうに考えています。で、実際に、そういったお金を引き出そう、っていうふうに、いろんな国が頑張っているわけだから、このカウンタープランは実効性がある、というふうに評価すべきです。

で、その上で、まず単独採択の金額の差分ですね、そこについて、補足をしていきます。まずですね、2NCで言ったように、金額としては大丈夫です… [パートナーにタイマーの確認] …それで、アメリカの例を見ても、結局…アメリカの例を見てもですね、地理的に離れていても、基準緩和を発表すると流入が増えていきます。

毎日新聞 2016

「オバマ大統領は昨年9月、今年9月末までの2016会計年度内にシリアから少なくとも1万人を受け入れると表明していたが、期限より1カ月早く達成した。米国のシリア難民受け入れは昨予算年度は約1700人だった。しかし、シリアからの難民流出が急増し、欧州諸国で課題となる中、米国も受け入れ増を表明していた」³²終わり。

ということで、少なくとも、こういった地理的要因があるようなアメリカでも、一年間で6倍になる。だから少なくとも、このスタートラインというのは60億円の6倍、360億円、というふうにするべき。

で、難民認定率はどうなんだ、とかって質疑で言っていたんですけど、全国難民弁護団連絡会議ホームページによると、米国の難民認定率は61.8パーセントなので³³、やっぱり日本でもそれだけの難民を受け入れるから、コストがかかる、というふうに考えるのが妥当です。

で、次。競合性の2点目、ここを伸ばしてください。少なくとも、資金的な効率性は、絶対的に優位。しかも優位性の1点目で言った、20倍の人を救えるだけのお金の効率性がある、ここが完全にドロップされている。で、亡命権をキャプチャーできない、って言っているのは、結局じゃあこれって、他国でいいじゃないですか。なんで日本じゃないとだめなんですか、っていうところの、やっぱりそこに対する応答がないと思います。で、他国から批判があった、っていう話は、これは何か、新聞で批判があったっていうだけであって、全然ポーターにならないと思います。

じゃあ次、限界があった、というところについても、これも、何で限界なのかわからないし、実際に質疑で確認したのは、やっぱり物資が足りない、つまり、お金で解決できる問題、というのはある。だから、やっぱり、その…限界だから無理です、とかっていう話ではないです。

じゃあ次、ケニアのキャンプが閉鎖されている、っていう話なんですけど、そもそも1点目として、これは一例でしかないですし、2点目として、やっぱりこれは現状の話なんですよ。で、3点目として、彼らが問題にしているのは、治安だとかっていうふうに言っていて、我々が解決性の1点目…解決性に追加した…2NCですね…資料を見てください。要するに、こういうような、ソーラーランタンとかを使って街灯を作る、その結果安全になる。こういった資金援助で、こうしたような、抱える問題というのを解消できる、という話です。で、実際に、難民も安心しています。

UNHCR Fall

「街灯が設置されてあるエリアの犯罪数の減少です。空き巣犯罪があり、誰もが（特に女性が）安全なコミュニティになったのを感じ、夜間に外出できるようになりました。女性たちは、一人で歩いて帰れるほど安全になったと感じており、以前より自由に行動するようになりました。」³⁴終わり。

ということで、やっぱり実際にある程度効果はある、だから資金援助の意味はある。

で、次、たくさんいろんな人が来ているとか、見殺しにしちゃうんだ、みたいなこと、これは2NCでも言っているんですけど、結局カウンタープランって、別に見殺しにするわけじゃない。で、きちんとお金を渡して、難民キャンプで過ごしてもらって、その、難民キャンプの環境もどんどん良くしていく、これが否定側の考え方です。

32 「米国 シリア難民1万人受け入れ 1カ月早く達成」『毎日新聞』2016年9月2日
<https://mainichi.jp/articles/20160903/k00/00m/030/088000c>

33 (表) 「G7 諸国+韓国・オーストラリアにおける難民認定数等の比較」『全国難民弁護団連絡会議HP』2016年 <http://www.jlnr.jp/stat/>

34 「UNHCRの2人のエネルギーエキスパートへのインタビュー」『IKEA HP』2015年11月
http://www.ikea.com/ms/ja_JP/good-cause-campaign/brighter-lives-for-refugees/stories/index.html

で、最後、何か、テロリストがある、とかって言うていたんですけど、これっていうのも、結局減るものもある、というだけであって、我々の、資金援助とか、そういったものが重要である、と、ここに対して全然反駁になっていない。だからやっぱり行っていくべきだ、この議論は残っているというふうに思います。

じゃあ次、ケースに行きましょう。

ケースについてですね、まず、我々のカウンタープランに対しての、実行可能性の反駁しかなかった、ということを確認してください。だから、これがちゃんと実行できるのであれば、少なくとも、迫害が待つような母国に帰る危険性というはなくなる。だから、ここの、少なくとも人権は守られる。で、AとBなんですけど、結局これも難民一般の話なので、命を救うことが重要だよ、っていうところ、ここを完全にドロップしている。だから、少なくとも、より多く救えるような立場を目指すべき。だから、より多くの人権というのを保護するべき。だとしたら、カウンタープランの方が効率が良い。

で、次、Bのところ。結局ここも、大事だ、とか言っているんですけど、何で日本でやらなくちゃいけないのかわからない。で、少なくとも日本…少なくとも、難民の大多数、というのが、周辺国での受け入れを望んでいる、しかも、文化的均一性が高い。だから、少なくとも彼らのところに立っても、日本でないと絶対に…日本で絶対受け入れられないとだめ、というふうには、ここの点では言えない、というふうに思います。だから、少なくとも、数、というのを、やっぱり優先する、っていう余地はある。

で、次、D。ここも、1NCで打ったダウト、っていうのが完全に残っている。つまり、こういう基準もある、というだけであって、この試合において、これを絶対に優先しなくちゃいけない、という話ではないんです。だから、積極的ななんとか、とか、消極的ななんとか、っていうのもあると思うんですけど、それも一つなんです。なんだけれども、我々は、少なくとも何を言っているかという、人道支援の現場で何が起きているか、これっていうのは、要するに、人権っていうのはちょっと脇においていても、でもやっぱり人命優先であるべき。なんでか、っていうと、だって、人命がないと、その上に人権もないじゃないですか。だって、死んじゃったら元も子もないんですから。だから、やっぱり命を救うっていうのが、難民問題とか、こういった問題では、優先されるべきであって、なので…というところのコスパを考えるべきです。終わります。

■肯定側第一反駁：佐藤可奈留（Art of Argument）

始めます。ケースサイドの議論から。

まず、1点目として、Aは残っています。政策論において、義務論による判定をしちゃいけないとは、彼らは言っていません。そこは、否定の論証はされていません。

じゃあ次、Bの二枚目も残っています。亡命権。その場所の人は、そこでしか守れないから、国には、来た人を受け入れる義務がある、突っぱねちゃいけない。突っぱねただけで、もう義務の不履行だから、それは解決しないといけない、これは認められている。Bの一枚目の資料も残っている。だって亡命権は、平和の生存権の一項なのだから、守らなければいけない、当然です。

で、じゃあ次に、他国がただ言ってるだけじゃん、僕たちは世界的な…批判されているんだよ、と言ったら、他国が…あの…新聞記者が言ってるだけでしょ、って話なんですけど、僕たちはケニアのキャンプの話…否定側のサイドを、伸ばしてください。当事者のケニアキャンプの人たちが、ちゃんと…先進国も受け入れてください、と言っているのが…当事者が言っています。

で、次にですね、Cも残っていますよね。結局、受け入れたら人権が守られ…受け入れたら、人権が守られるっていうのは、否定されていないので、解決性はあります。

で、次、Dも残っている。結局彼らは、積極的な義務であって、僕たちは消極的義務であって、それは認められていて、Dの論点は残っているから、もうこの時点で、ボートはアフアにできますよね。だって、消極的義務の方が大事なんですから。

で、次に彼らの優位性のタリバン資料なんですけれども、結局、彼、資料チェックするけど…女性差別とかより人命優先をしたっていうだけで、別に人権の中でどう優劣をつけるか、という話はないから、Dの議論っていうのはやっぱり残っているんです。で、義務を果たさなきゃいけないな

ら、より守るべき義務っていうのは僕たちのプランなんだから、そっちに投票できますね。もうすでに投票できる。

で、次にですけど、じゃ、命を守るのかどうかっていう点で見ても、カウンタープラン、怪しい、っていう話をしましょう。彼らはまずですね…そう言えば、肯定側の、難民は日本の方がいいんだ、っていう…周辺国の方がいいんだ、っていう話なんですけれども、これまず、日本に来た人に聞いたわけじゃないですよ。僕たちが言っているのは、たまたま日本に来るっていう証明はしましたよね。否定側のサイドで。たまたま日本に来た人を受け入れようっていう話なんです。それはそこにいる人たちは、そこの方がいいに決まっていますけれども、来た人もいます。そういう事実があるんです。そういう人を守んなきゃいけない、というのがBの二枚目の資料です。やっぱり残っているんです。

で、次に、送り返して、キャンプで暮せばいいじゃん、っていうと、で、これがカウンタープランの議論ともなってくると思うんですけども、これについて…いろいろ読んでいましたよね、彼らは、イケアがライトを作った話とか、いろいろ読んだと思うんですけど、まとめて反駁していきます。まず、交渉材料になる、という話がありました、カウンタープランの優位性の方で。交渉材料になるから何ですか。多額の資金を援助できるんですか、十分な資金を援助できるんですか。わかりません。

で、次に、納得度が上がる、という話がありました。納得度が上がってどうなるんですか。十分な援助ができるんですか。僕たち…栄養失調が解決できるとか言っていますが、じゃあ、栄養失調は何回治すんですか。ライトを作った？ライトが壊れたら本当に直してあげるんですか。じゃあ、学校に行けた？学校に行ったら、他の、家とか、食事とか、寝る場所、何も確保してないじゃないですか。少なくとも、じゃあ一回確保してあげました、ってだけで、テロリストとかもいる地帯なんです。何も安全じゃないのに、なんでそこで継続的に一回の援助を…毎年60億の援助、たったそれだけで、ずーっとずーっとその人が暮らせるって言うてるんですか。それを証明してくださいよ。だって人命を守るのが目的なら、そこまで証明しないと意味ないでしょう。ずーっと人命が守れるっていうことを証明しないと意味がない。証明してください。

で、じゃあ、だから義務…義務を果たしているとすらも言えませんよね、これは。人命を果たしていないし、義務も果たしていない。二重の意味でだめ。肯定側に二重の意味でポートしてください。

で、次ですね。じゃあ、60億円の話…いろいろ言いましたけれども、1NRで、女性が歩けたよ、っていう資料ありましたよね。あれって、明らかにNewですよ。だって、補強しているから、僕たち、反論していないのに、その前に補強しているんだから、あれはNew、取らないでください。で、仮にじゃあ、女性が歩けたとしても、女性が一回歩けただけで、それ以降はどうなったんですか、っていう話です。それ以降も継続してうまくいった、っていう話をしてください。

で、次に行きたいと思います。まず、シリア難民が来たっていう話…否定側のフローを見てください。カウンタープランのあたりだと思えます。米国はシリア難民がたくさん来たよ、っていう話、1点目として、アメリカはメキシコ経由とかで、いろいろ、あの…経路が…経路があると思うんですけど、僕たちは、シルクロードを歩いてくるか、飛行機で乗って来るかしかなんです。だからまず、その点で、日本の方が地理的障壁は高い。

2点目として、じゃあ、仮にですよ…2点目として、実は、アメリカって、シリア難民を…あの、資料中で言っていましたよね。表明して、守る、と。シリア難民を守るよ、って表明して、守りに行ってるんです。だったら、それはシリア難民がたくさん来るのは当たり前ですよ。僕たちは別に特定の難民を、表明して守る、とかじゃなくて、受け入れの基準を緩和して、たまたま来た人を守ろうって話なんです。だからたまたま来た人は、あんまりいないっていう話しましたよね。だから、大丈夫です。

で次に、2001…1万人基準で…同じにする、だか、何か…たくさん来る、って証明してましたよね、基準を下げるんだから…国際的基準にするから、国際的基準くらい来るよ、って話なんですけども、僕たちは、基準を緩和するだけで、地理的障壁とか、何も別に…道路を作ったりしませんよね。だからあの、来るって証明をしてください。基準を緩和したけど、それだけじゃ増える、って証明じゃない。来るっていう証明をしてください。難民が口を合わせて来る、っていう証明をしてください。で、次にですけども… [時間切れ]

■否定側第二反駁：福原開斗（IF）

始めます。カウンタープランの説明から。

カウンタープラン、まず、資金援助をする、ということ。で、4点目の、難民キャンプに送る、っていう話も、彼らは、実行可能性に関しては、否定されていないというふうに考えています。彼らは、本当に包括的な支援とか、納得できるのか、という話しかしてなくてですね、実際、様々な支援…

送った資金をどう使うか、っていう、そういう…キャンプだったり、ホスト国で、自由で、そういう支援によって、いろんなことができるんだ、っていう、解決性に先ほど私が追加した話が全く否定されていなくてですね、じゃあ、そうなった時に、彼らが言っているように、実行可能性が全くない、というふうに取れるか、っていうとそうではない。実際に、資金を欲しがっているっていう現状があるわけだから、それを、ちゃんと実行していける、というふうにするのが妥当だと思います。

じゃあ、それを踏まえて、ケース。

ケースサイド、まずAからさらっていくんですけど、まず、Aの、そういうふうには、人権が大事…人権が迫害される状態にあってはいけない、という話、これは我々も同一で、我々もまさにその価値観に則って、より多くの人命を救いましょう、という価値を提示している。で、その次、その後、多分彼らは亡命権を国家は守るべきっていうところを言っている…伸ばしてくると思うんですけど、そこについては、我々は再三疑問を提示していて、なんで国家が亡命権を守らないといけないのか、っていうところまで、全然言えていない、というふうに思う。それは何か、義務としてあるけれども、それは、彼らがずっと言っているようにですね、人命を奪う…放っておかれるようなことがあってはならない、ということはまあわかるんですけど、それは、我々のカウンタープランの立場でも、人命を奪うとか、人権の迫害の待つ祖国に返すわけじゃないですから、我々のカウンタープランの立場も取られるべき。

で、Cの話っていうのは、もうこれはカウンタープランでキャプチャーできるっていう話で返っているというふうに思います。

じゃあその次、Dの話。結局彼らは多分、Dの価値観っていうのを伸ばしてくると思うんですけど、これも結局我々が再三言っているようにですね、彼らはこういう価値を提示したに過ぎなくてですね、これが今回の論題で、何よりも優先されるべき価値なんだ、なんてことは、一つも示していないわけですよ。まあ、そういう価値もあるよね、ぐらいにしか取れない。で、そうなったとき、我々は、実際に難民支援、人道支援、というところにおいて、やはり人命の数を第一にとっている、という現状がある、実際にそういうふうには政策判断がなされている、という話を、否定側はしている、と。そうなったときに、やはり数で判断するべきだ、というふうに、我々は考えている。

それを踏まえて、否定側へ行きましょう。

否定側、まず、競合性の話から行きましょう。競合性の話っていうのは、今回のラウンドで全く否定されていないというふうに思います。まず競合性の2点目の話から。要するに、資源っていうのは有限なのだから、効率的な投資をしよう、という話、これは全く否定されていないので、優位性が示された時点で、否定側に投票すべき。これはもう絶対。

その次、競合性の1点目も否定されていないというふうに考えています。なんでかっていうと、受け入れにかかるコストがバツィングするんだ、っていう話は、全く否定されていないし、彼らからあったのは、その単独の差分で何ができるのか、っていう疑問にすぎない、で、それは、今回のラウンドでは、彼らは増えない、みたいなことを言っていたと思うんですけど、ミニマムでも60億…数十億から数百億かかるんだ、っていう我々の議論っていうのは否定されていないで、それでもできることがあるんだ、っていうのが、これ以降示された…まあ、私が示しているんですけど…それが示された時点で、ここをもって否定側に投票すべき。

で、その次。優位性の1点目から。優位性の1点目の、まず、我々の価値観…2枚目の…我々の価値観の話の伸ばしてください。やっぱり、人道支援においては、すごい、難民問題って大きいわけだから、人命救助を最優先に考えて、人命を救うことを第一に考えるべきだという話、ここは全く否定されていないというふうに思います。で、それを踏まえて、実際に、20倍の効率性をもってですね、資金援助では救えるんだ、っていう話は、全く否定されていないというふうに思います。1NCから言っている話。だからこそ、資金援助に全額回すべき。

で、その次、2点目の、質のところっていうのも、いろいろあったと思うんですけど、これが解決していく、っていう話は多分解決性でやっていると思っていて、まさに、資金援助で、こういう…まさに今、命の危機に瀕している、死にそうな難民を救うことができる、そういった、難民の人命だったり人権を保護することができるのであれば、否定側に投票すべきだというふうに考えています。

じゃあそれを踏まえて解決性。

解決するのかどうか。彼らは、恒久的にそういう支援ができて、本当に、難民全員だったり、そういうキャンプが納得できるのかどうか、みたいなことしか言えていなくてですね、実際我々が言っている、解決できる、という話…ミニマム5億円だって、やれる支援ってたくさんある。実際、安全だったり、安定化を支援することもできるし、食料もちゃんと渡すことができる。実際、それでやってい

る。で、さらになんですけど、それよりどどん額が多くなっていくと、できることも広がっていく、という話もしている。彼らはそこに対してダウトに過ぎない。本当にそれで納得できるの、本当にそれで救われるの、っていうレベル感にしか過ぎなくて、我々がずっと言っているようにですね、資金を渡すと、それで、より効率性をもって難民キャンプだったり周辺国では解決できる問題はたくさんある、と。そこは別に、周辺国だったり難民キャンプでも、いろいろな使い途があるわけじゃないですか。本当に、彼らが言っていたようにですね、街灯が壊れたんだったら、それを直せばいいわけですし、そこがより効率的にできる、という主張が認められている時点、さらに、資金があれば解決できる問題がたくさんある、と認められている時点…ここ、全く否定されていない、だから、これをもって、否定側に投票すべきだ、というふうに、今回は思います。終わります。

■肯定側第二反駁：武田顕司（Art of Argument）

まず肯定側のフローを見てください。今回考えるべきは、二つの枠組みがあると思います。まず一つは、義務として国家がやるべきなのかどうか、というところです。ここに関しては…論点Aに関しては、否定がなかったと思うので、伸ばしておいてください。

で、Bのところの話もいいと思います。これは何かっていうと、Bの二枚目の資料を伸ばしてほしいんですけど、今の国際社会を考えた時に、誰が人権を守っていくかっていうと、終局的には、主権を持っている、それぞれの国家…日本っていう領土を持っているのは日本なので、日本がやっていくべきだ、っていうことは否定されていません。この時点で肯定側に投票することはできると思います。で、そこに関して、カウンタープランの4点目があったと思うんですけど、これって、結局やっぱりどこの国が受け入れる、とかわからないし、うまくいくのか、っていう証明がない以上は、これは取れないと思います。なので、義務を果たしているとは言い切れないし、一回突っばねて、やってもらっているわけですから、やっぱり義務を果たしているとは言えないと思います。なので、義務を果たす、という観点から言えば、肯定側に投票すべきです。

で、仮にですね、従来のネットベネフィットの比較になった場合にでも、肯定側に投票した方がいいという話をしていきたいと思います。それで見たときにですね…否定側のフローを見てください。まず、カウンタープランの全体なんですけど、彼らは、ダウトしかしてないじゃないか、って言うんですけど、考えてほしいのは、彼らがそもそも論証する責任を果たしているかどうか、っていうところをチェックしてくださいっていう意味で、我々はダウトを打っています。プランの4点目もそうです。誰がやるのか分かりません。どこの国が受け入れてくれるのか分かりません。お金を出したらやってくれるでしょう、しか言っていないです。じゃあ、本当にそれでやってくれるのか、わからないんだしたら、お金をもらったとしても意味がないです…お金を払って政策を導入したとしても意味がないですし、同時にやったほうがいいと思います。

同時にできるかどうか、というところに関して、少なくともお金を出せば、その分はできる、ということには言っています…2ACで言っています。で、たくさん来るかどうか、という話がありました。これに関しては、総合的に出ている情報から判断すると、あんまり来ない、と考えるのが妥当で、日本は地理的にも障壁が高いですし、アメリカの例だって、シリア難民を受け入れましょうっていう前提でやってますし…そうですね…というところです。

優位性の話に行きます。まず、数の方が大事だ、っていう話があったんですけど、結局彼らはですね、数の話…なんで数のほうが大事なのか、っていう理由を示していないと思います。それに対して、我々も、なんでじゃあ、Dの論点ですね…ケースの…Dの論点を優先すべきかっていうのは、出してはいいです。なので、考えて欲しいのは、あなたたちが、どちらの価値観が素晴らしいのか、っていうのを判断して欲しいです。これはどういうことか、っていうと、Dの論点は残っているから、そのまま取るっていう判断でもいいですし、国家が、一人を見殺しにして、たくさんの人を救うっていうアクションを取ること自体の是非を問うて欲しいと思います。それで納得できるのであれば、数で単純に考えなくてください。質の話、これに関してもやっぱり命に関わっている、というのはケースで言っているの、当たっていないと思います。

カウンタープランの解決性のところへ行ってください。解決性のところですね、結局彼らはですね、何ができるのか…解決するのか、っていうのは、あんまり言えていないと思います。何を言っているかっていうと、お金を出したとしても、何に使うか、っていうのが結局曖昧…何か、具体例はありましたけど…で、それが継続的にやっていけるのか、本当に救っていきけるところまでやっていけるのか、っていうところまでは示せていない。で、実際にテロリストに物資を奪われるような状況もあるわけです。これが何を意味しているか、っていうと、結局、お金を出しました、その後どうなるのかは知りません、っていう立場なんです。これって、到底義務を果たしているって言えないですし、少なくともですね、カウンタープランで、お金を出せば救われる問題があるのであれば、同時に採択すればいいという枠組みは、2ACから言っている以上、それは否定されていません。結局ですね、経済の効率性っていう話をしてたんですけど、結局、あんまり日本に入ってくるわけですから、お金つ

て、そんなにかからないと思うんです。なので、そうしたら同時採択できる、っていう考えも取れると思います。

最後に、結局ですね、日本がなんで行動を起こさなきゃいけないか、っていうと、Bの一枚目の資料です。平和的生存権を、憲法前文でうたっている以上は、やはり…誓っている以上は、行動を起こしていくべきです。なので、プランを導入して行くべきです。よって、肯定側に投票してください。以上です。